富士市教育委員会会議　５月	定　例　会 臨　時　会	会　議　録 （令和５年）

開催日	会議場
令和５年　５月２２日　月曜日 開　会　　１３時３０分 閉　会　　１５時１１分	市庁舎６階 第１、２会議室

出席委員の氏名

教　育　長	森　田　嘉　幸	委　　員	松　田　靖　子
教育長職務代理者	和久田　惠　子	委　　員	塩　谷　知　一
委　　員	篠　原　　均		

出席職員等の氏名

教育次長	江　村　輝　彦	青少年相談センター所長	川　口　壽　彦
教育総務課長	味　岡　俊　雄	博物館長	植　松　良　夫
学校教育課長	齋　藤　文　徳	教育総務課調整主幹	小長谷　　聡
学務課長	村　嶋　　博	教育総務課参事補	吉　村　直　也
社会教育課長	吉　田　和　洋	教育総務課主幹	遠　藤　綱　輝
文化財課	久保田　伸　彦	教育総務課指導主事	瀧　　南
中央図書館長	大　川　英　子	教育総務課指導主事	山　田　英　雄
富士市立高校事務長	榎　　俊　英		
教育研修・特別支援教育センター所長	檜　木　小重美		傍聴人　なし

開会

会議録の承認

教育次長の報告要旨

教育次長	○令和４年度教育委員会自己点検・評価に関する外部評価について ・５月 30 日と６月９日に令和４年度の教育委員会の活動に係る「自己点検・評価に関する外部評価検討会」が行われる。これは、教育委員会の権限に属する事務の管理と執行状況について、外部の学識経験者から意見や助言をいただくものである。この検討会の結果を受けた後、評価報告書を作成し、９月の市議会定例会に提出し、公表する。 ○市議会６月定例会について ・市議会６月定例会が６月 13 日から同月 28 日の間で開催される。また、産業教育委員会は６月 16 日に行われる。 ・教育委員会に関連した議会質問の答弁要旨については、７月定例会に資料として提出する。

議題（動議）及び議事の大要

議第 17 号 （説明） (質問･意見等)	○令和５年度教育委員会所管６月補正予算について ・教育総務課長 →予算の収入と支出のバランスが取れていない。交付金の利用を考えていると説明があったので分かったが、歳入に書いていなければ分

	からない。歳入に交付金と書くことはできないのか。
（回答）	→交付金は、年度末にまとめて扱うことになるので、歳入に入れることはできない。次回から、参考として記載するようにするが、いかがか。
(質問･意見等)	→令和５年度末に歳入として記載されるということか。
（回答）	→そうである。
（回答）	→歳入は、臨時交付金を充当する。その臨時交付金の充当の仕方は、財政部局で検討している。教育委員会としては財源として不足分に臨時交付金を充ててもらうよう希望しているが、教育委員会の所管以外の他の事業にも充てる可能性があり、財政部局と調整をしていく。ただ、臨時交付金で満額充当されなくても残りは一般財源をもって対応する形になると思われる。
(質問･意見等)	→これは補正予算として、議会に提出されるものなのか。
（回答）	→予算案として６月の定例会に提出するときには、財政部局の調整が終わり、予算案としての額が確定している。
(質問･意見等)	→支出をするためには、財源が確実にある必要がある。支出に対して歳入が紐づけられておらず、収入は収入で、支出は支出で確定というのはどうなのか。
（回答）	→この資料は要求一覧表という形であり、歳入と歳出の値に大きな差額があるので、枠外に参考として地方創生臨時交付金を充てる予定であるなどと、ただし書きをすれば分かりやすくなると思う。
(質問･意見等)	→何らかの形で今の収支、収入と支出が一致するように、工夫を検討していただきたい。
（議決）	→承認
議第 18 号	○富士市社会教育委員補欠委員の委嘱について
（説明）	・社会教育課長
議第 19 号	○富士市図書館協議会委員の委嘱又は任命について
（説明）	・中央図書館長
議第 20 号	○富士市立高等学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
（説明）	・富士市立高校事務長
議第 21 号	○富士市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱又は任命について
（説明）	・青少年相談センター所長
議第 22 号	○富士市立博物館協議会委員の委嘱又は任命について
（説明）	・博物館長
(質問･意見等)	→富士市立高等学校の協議会委員の任期は２年であるが、PTA会長の任期はいかがか。１年で変わっているのではないか。
（回答）	→１年である。PTA会長が変わると、新しいPTA会長が後任の委員とな

	る。
(質問･意見等)	→PTA会長の任期は１年と決まっているのか。
(回答)	→任期は１年だが、再任は妨げない。以前、２年務めたPTA会長もいた。
(質問･意見等)	→そうであれば、委員の定数は15人以内とされているので、現職のPTA会長と次期PTA会長の２名を選んだ方が、１年交代よりもよいのではないか。１年間だけでは何も分からずに終わる。１年間、体験すれば、実情が分かるので、次期会長を選べるのであれば、２年間の任期に合わせる意味でも、もう１人選んでもいいと思う。来年度以降検討していただいてもいいのではないか。
(回答)	→今回は現職のPTA会長だけだが、次回、そのような対応ができるか検討する。
(質問･意見等)	→今回、公募委員の方が３つの協議会の委員候補者に挙がっているが、各協議会の専門分野や趣旨も異なり、会議が複数予定された場合、委員の負担が重くなると思うが、相互調整はどうなっているか。
(回答)	→今回、公募委員については行政経営課から提供される公募委員候補リストから選んだ。３つの協議会の委員候補者に挙がっている公募委員がいることは、この議案書を配られて知った。委員の併任は附属機関及び懇談会等を合わせて３つまでとされているので、特に問題はない。ただ、今の指摘のとおり、負担のことを考え、審議の日程が重ならないようにするなど、所属長同士で話し合い、配慮していく。
(質問･意見等)	→本人の意思などを踏まえ、負担がないように、かつ、いろいろな人材にいろいろな意見を聞けるような調整をお願いする。
(質問･意見等)	→承認をするときに公募による市民の方について、どのような方なのか全然分からない。他の方で役職等が分かれば、どのような方か多少は分かる。どのような方か具体的な説明をいただかないと、承認できないと前回お願いした。
(質問･意見等)	→再任の方に学識経験者がいるが、どういった学識経験者なのか。
(回答)	→この方は、青少年相談センターにも来ている方である。学識経験者として運営協議会委員になっていただいている。
(議決)	→承認
報第５号	○令和４年度教育施策の自己点検・評価について
(説明)	・教育総務課長、学校教育課長、学務課長、社会教育課長、文化財課長、中央図書館長、富士市立高校事務長、教育研修・特別支援教育センター所長、青少年相談センター所長
(質問･意見等)	→スポーツを楽しむ子どもの育成の展望の１つ目の文章が展望なのか課題なのか疑問に思った。

（回答）	→指摘のとおり展望の内容ではない。課題のところに入れさせていただく。
(質問･意見等)	→タブレット端末の故障率が高く、精密機器を扱うリテラシーの育成が課題であるとあるが、これは歳出にも直結することである。導入後、何年か経過しており、様々な不調がある中で、次年度の展望に含むことが必要ではないか。 自分の命を守るため適切な判断を取ることができるというところが具体的にイメージの共有ができているのか。
（回答）	→指摘のとおり、端末の故障率は高い。また、リテラシーに関しては課題である。今後は、物の扱いについての指導をより丁寧に行うこと、またリテラシーについては定期的に子どもたちに投げかけていくことを継続する。 防災教育については、学校により立地条件が違うため、避難のイメージも異なる。必ず避難訓練をやる前に、目的やその地域で考えることを子どもたちに説明した中で避難訓練をするようにと指示している。ただ、子どもたちが実際に自分の命を守ることができるということをどのレベルをもってそう判断するかは具体的にイメージしにくい。子どもたちに身に付けなければならないものを書き出して、一次避難はどうするか、二次避難はどうするか、注意事項は何かと、判断させるものを準備して指導するように意識していきたい。
(質問･意見等)	→研修センターの教職員の資質能力の向上の指標の回答した割合の主体は学校か、それとも保護者か。回答が学校か保護者かにより、指標の意味が大きく変わる。
（回答）	→学校評価アンケートであり、保護者が対象である。保護者が回答した割合と表記する。
(質問･意見等)	→特別支援教育の充実について、Ｂ評価の理由が研修の量より質を重視し、研修満足度を指標として用いてという話だった。量より質をということに異議はないが、特別支援教育の充実を測る指標に研修受講者の満足度が指標としてふさわしいのか。様々な取組がなされていて、次年度への展望も明確であるが、研修満足度という指標だけでＢという評価でいいのか。
（回答）	→以前は、サポート員の配置人数を指標としていた。ただ配置した人数を指標とするのはどうかと考え、様々な議論を行った上でこの指標とした。今後、よりふさわしい指標があるか検討していく。
(質問･意見等)	→丁寧な議論をした上での評価であれば、指標の判断については担当課に任せる。引き続き検討してほしい。
(質問･意見等)	→客観的に数字で捉えられる指標について、今後検討の余地があると思う。富士市の特別支援教育の充実は、進んでいると客観的評価を

	受けている部分はある。しかし、これは自己点検評価であり、自己評価をどう受け止めれば、何をもって指標とすればということは、今後検討する必要がある。
（回答）	→自己点検評価報告は、第２次富士市教育振興基本計画の中で項目ごとに何を指標に置くか規定されており、その計画に基づいての報告である。そのため前期計画の令和８年度まではこの指標で評価させていただきたい。
(質問･意見等)	→自らの命を守るところについて、目標値に対して実績値が高いものの、総合評価がＢとなっている。目標値は達成できたのにＢにした理由をもう１度説明していただきたい。
（回答）	→数値は高いが、各個人が、自己判断で付けた数字である。実際にその状況になった時に必ずその子が判断できるか分からないため、この数字が高いから安心できないという思いを込めてＢにした。
(質問･意見等)	→目標達成までにすぐに数値は出ないので、目標値を全てクリアできるわけではないと思っている。そのため、評価の内容についても、見直してもいいのではと感じた。教育委員会事務局の話を聞くといろいろなことに関して、たくさん取り組んでいることがよく分かるし、真摯に課題を洗い出していることも分かる。一方で、目標を達成して評価されないとなると、職員のモチベーションが下がるのではないかと不安になる。 また、習得、活用、探究による学びの深化の目標値が低く設定されている。よく行ったと回答した人と設定されているが、行ったを含めれば評価は上がるのではないか。この指標についても今後検討した方よいのではないか。
（回答）	→小学校では行ったまで含めると100％になり、簡単に目標を達成してしまう。次に目指すところを考えるとより上のレベルを追求しようと思いこの指標にしている。
(質問･意見等)	→指標自体を別のものに変えるという工夫も必要かと思う。今後の課題にしてほしい。
(質問･意見等)	→行った、又は、よく行った、で７割から８割ぐらいの現状の中で100％を目指せるような指標を検討することも１つの選択肢かと思う。今後の課題として取り上げてほしい。
（了承）	→了承
各課等の報告・予定事項	
閉会	